第１回新たな大阪農政検討部会における主なご意見と対応について

資料１

**１．成長と持続**

○トップ層の農家を伸ばしていく議論が多かったが、普通の農家や自給的農家にボトムアップを促す意識転換が大切。

○全ての農家を強い経営体に置き換えていくのは厳しい。家族経営をどうとらえるか。

○農家からすると、遠い話に感じる。農家を引っ張り上げるような取り組みが必要。

➡別紙①のとおり委員ご意見を反映しております。特に、持続に関する取組については、別紙②を参照ください。

**２．食と農**

○消費や需要から農業を見る視点が必要。健康、フードマイレージ、食育等でどういうシナリオが描けるのか考えるべき。

○食の都を楽しもうという大きな視点から農業に何ができるか考えると、消費者を巻き込みやすい。

SNSなどで第三者が発信する広告塔の存在が必要。

○幅広い観点で大阪農業をいかに消費者に知っていただくかが大事。南河内や堺市に比べ、大阪市以北は農業になじみが薄く、どのように知っていただくか考えてほしい。

➡消費者ニーズを考慮することは重要と認識しており、例えば大阪産(もん)グローアッププランでは、マーケットインの発想で販売促進や品目転換に取り組むこととしています。健康やフードマイレージ等への取組について、本日ご議論をお願いいたします。

**３．マッチング**

○中間支援やマッチングは大きな要素。消費者と生産者をどうマッチングするのか、生産者同士を地域の中でどうマッチングするか。生産者は一人勝ちでなく、地域・全体で発展していく、というような意識醸成を図るべき。（増田部会長総括）

➡府では、以下のようなマッチングを行っております。農業者と都市住民等のつながりの価値創造について、本日ご議論をお願いいたします。

　　◆生産者と消費者

　　　・直売所での交流支援

　　　・「農」に親しむライフスタイル推進府民会議（会員：消費者団体等）

　　◆生産者同士

　　　・４Hクラブや農の匠の他、各市町村の生産者団体等への支援により交流を促進

　　◆農空間と都市住民

　　　・農空間づくりプラットフォーム（地域活動団体や大学、企業等が交流）

　　　・棚田ふるさとファンクラブ

　　　・大阪農業つなぐセンター（半農半X、副業人材、援農ボランティア等）

　　◆農業者と企業

　　　・大阪農業つなぐセンター（企業参入、副業人材仲介）

**４．高収益型農業**

○高収益型農業を目指すにあたりスマート農業の考え方は抜きに出来ない。モザイク化、小規模化という大阪農業の実態に合ったスマート農業のあり方を検討していくべき。

○一定以上の収益向上には雇用が必要、雇用すれば経営者意識が向上する効果もある。平均年収以上を目指す方へは行政が雇用への意識を促すべき。一千万円以上なら雇用は必須。

➡高収益型農業の推進にあたっては作業の効率化、品質の向上を図るスマート農業の導入が不可欠と考えており、生産者の営農計画に応じ、スマート農業技術の導入を前提とした基盤整備と施設整備を一体的に行う制度設計を進めていきます。

　雇用については、「経営強化コンサルプロジェクト」を活用して、雇用を前提とした経営改善計画の策定や、雇用契約書の作成などを専門家とともに農家へ指導しています。

**５．物流**

○物流の問題は大きい。府が物流を流す動きをしてもらいたい。

○より効率的な物流方法で大阪農業を活性化していくべき。

➡効率的な物流を実現するため、住友商事(株) と共同でのオンデマンド配送の実証実験や、やさいバス(株)と連携した共同配送など、官民連携による取組みを始めています。また、国に対してフードマイレージ削減につながる共同出荷の実証実験について要望しています。地産地消を促進する物流について、本日ご議論をお願いいたします。